

■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

***** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

Ⓒ : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。
無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Todai OCW 学術俯瞰講義
Copyright 2013, 土井 正男

The University of Tokyo / Todai OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series
Copyright 2013, Masao Doi

2013/06/24 東大学術俯瞰講義

チューインガムの中の物理

北京航空航天大学

ソフトマター物理研究センター

土井正男

アウトライン

- ガムとゴム
- ガムの分子
- ゴムの弾性
- ガムの粘性
- レオロジー
- まとめとレポート問題

ガムとゴム

本日の主役



Photo by David Haberthür, Wikimedia Commonsより転載
<http://www.flickr.com/photos/79112147@N00/496069/>
CC BY-SA 2.0

風船ガム



生ゴム(ガム)



Photo by Bill Ebbesen, Wikimedia Commonsより転載
http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Rubber_bands_-_Colors_-_Studio_photo_2011.jpg
CC BY-SA 3.0

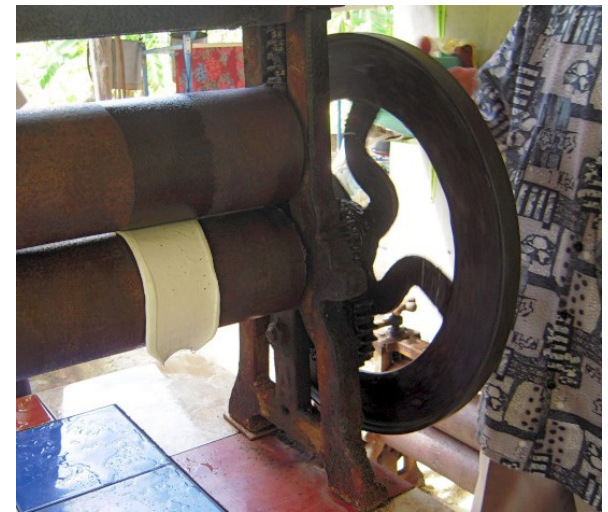
輪ゴム

包装紙から出したままのチューインガムはここでは考えません。



Photo by Lusheetta
http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Chewing_gum_stick.jpg
CC BY-SA 3.0

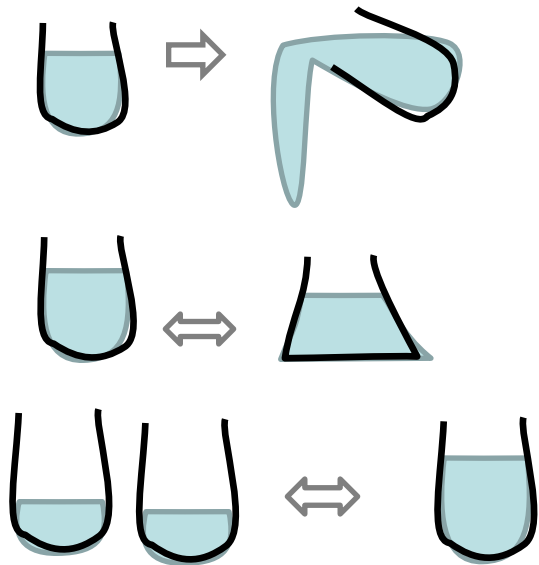
ゴムの木から取れるガム



ガムは液体とも固体ともつかない

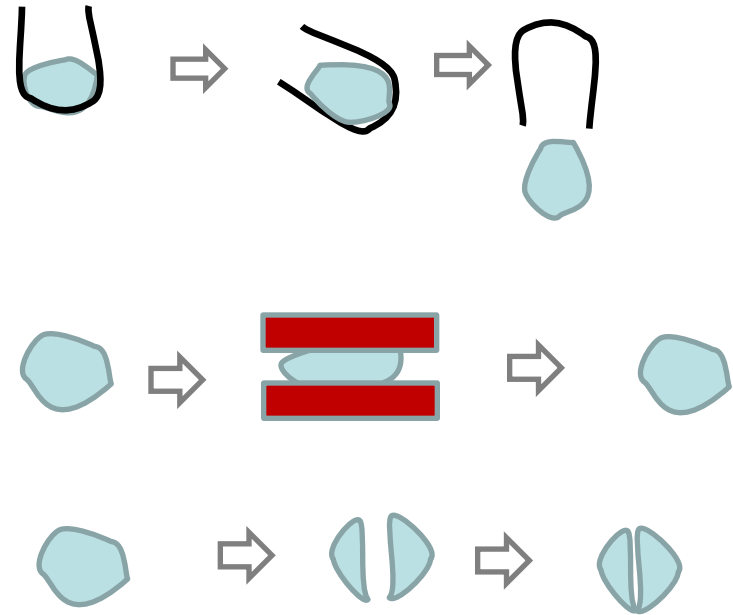
液体:

- 流れる
- どんな形にでもできる。
- 二つに分けても、もとに戻せる。



固体:

- 流れない
- 力を加えないと形が保てない。
- 二つに分けると、もとに戻せない。



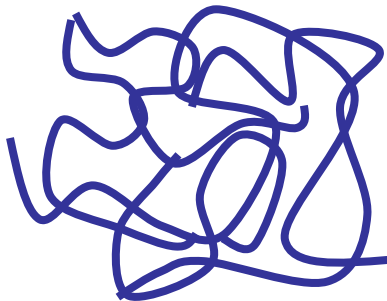
ガムの分子

ガムの物理の基礎



Photo Credit: Fr. Schmelhaus /
ETH Zürich, from Wikimedia
Commons
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hermann_Staudinger_ETH-Bib_Portr_14419.jpg
CC BY-SA 3.0

Staudinger 1920'

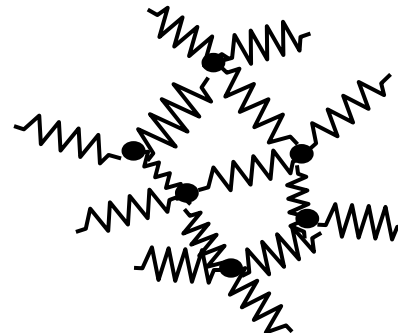


ゴムはひも状の分子(高分子)からなる



*
Hans Kuhn (1984) Leben
und Werk von Werner
Kuhn, *Chimia*,
vol.38:191-211, p.209
Fig.44
© Chimia

Kuhn 1930'



ガムの弾性は分子運動

歴史

- 16世紀：南米から生ゴムがヨーロッパに伝えられる
- 1806 Goughの実験 > ゴムの示す奇妙さ
- 1839 Goodyearの発明 > ゴムの需要の拡大
- 1887 ファントフォッフ法則 > 分子量を測ってみよう
- 1920' Staudingerの高分子説
- 1930合成ゴムの発明 > 石油化学の幕開け
- 1936 Kuhnのゴム弾性理論
 - > ゴム弾性の起源
- 1948 Green Tobolskyの一時網目理論
 - > 古典的絡み合い理論
- 1971レプテーション理論
 - > 現代的絡み合い理論

Goodyearの発明 生ゴムからゴムへ

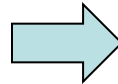
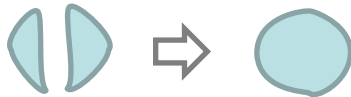
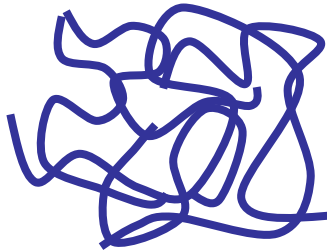
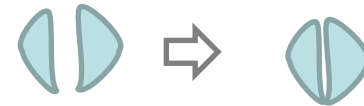


Photo by Bill Ebbesen,
Wikimedia Commonsより
転載
http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Rubber_bands_-_Colors_-_Studio_photo_2011.jpg
CC BY-SA 3.0

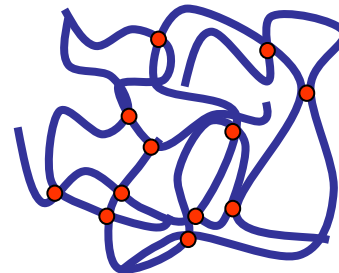
生ゴム



輪ゴム



架橋

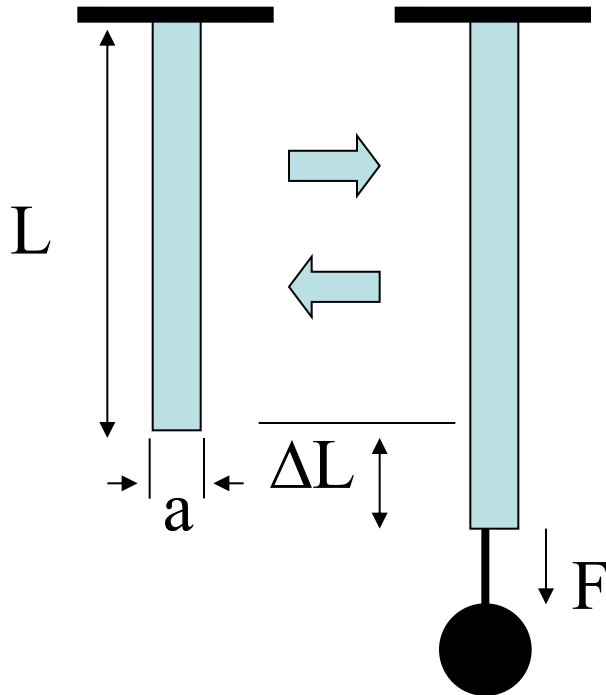


ゴムの弾性

弾性

固体に力を加えると変形するが、力を取り去ると元の形に戻る。
弾性は固有の形を持つ物質の性質である。

引っ張り(伸張)変形



Hookeの法則 $F = k\Delta L$



$$\frac{F}{a^2} = E \frac{\Delta L}{L}$$

$$\sigma = E\varepsilon$$

$$k \propto \frac{a^2}{L}$$

$$\sigma = \frac{F}{a^2}$$

応力: 単位面積当たりの力

$$\varepsilon = \frac{\Delta L}{L}$$

歪み: 単位長さあたりののび

E

ヤング率

ゴムは軟らかい

鉄	200	Gpa [10^9 Pa]
ガラス	70	Gpa

ポリエチレン	200	Mpa [10^6 Pa]
ゴム	1-100	Mpa

ゲル	1-100	Kpa [10^3 Pa]
----	-------	------------------

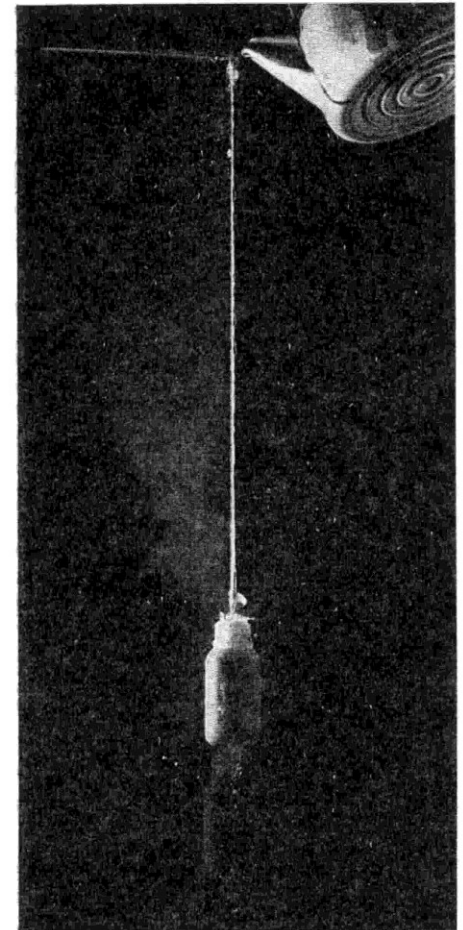
ゴムの弾性は不思議

よく伸びる。

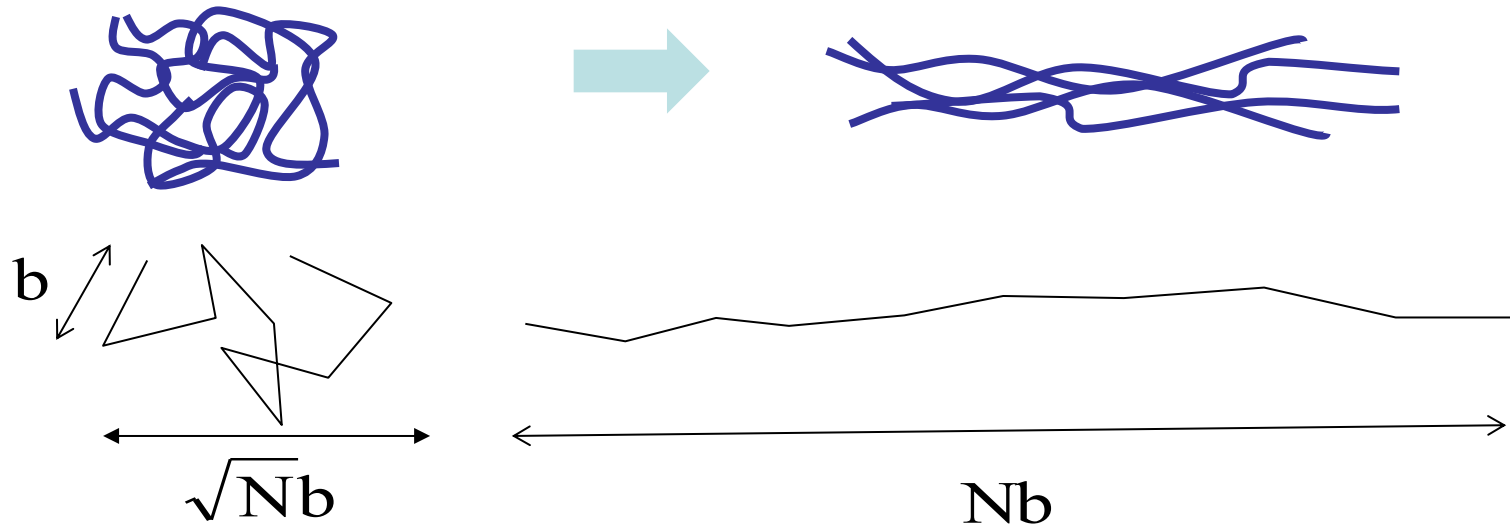
- 金属やガラスは数%のひずみで破断
- ゴムは数100%まで伸ばしても破断しない

奇妙な温度依存性

- 引っ張ると暖かくなる
- 収縮させると冷たくなる
- 温めると縮む



なぜゴムは良く伸びるか？



$$\mathbf{R} = \mathbf{r}_1 + \mathbf{r}_2 + \dots + \mathbf{r}_N$$
$$\langle \mathbf{R}^2 \rangle = \langle \mathbf{r}_1^2 \rangle + \langle \mathbf{r}_2^2 \rangle + \dots + \langle \mathbf{r}_N^2 \rangle + 2[\langle \mathbf{r}_1 \cdot \mathbf{r}_2 \rangle + \langle \mathbf{r}_1 \cdot \mathbf{r}_3 \rangle + \dots]$$

$$= Nb^2$$

$$\lambda_{\max} \approx \frac{Nb}{\sqrt{Nb}} = \sqrt{N}$$

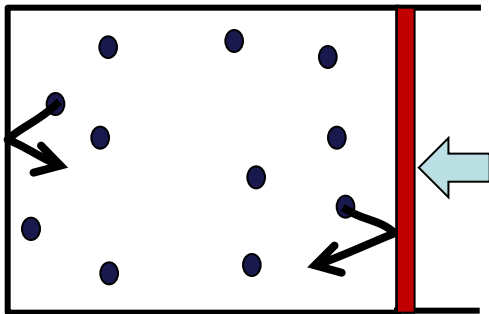
$$N = 100 \quad \text{なら} \quad \lambda_{\max} \approx 10$$

なぜゴムを引っ張ると暖かくなるのか？

温度は分子の運動エネルギー

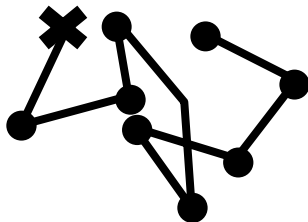
気体

$$\frac{1}{2}mv^2 = \frac{3}{2}k_B T$$



気体を断熱的に圧縮すると温度が上がる。

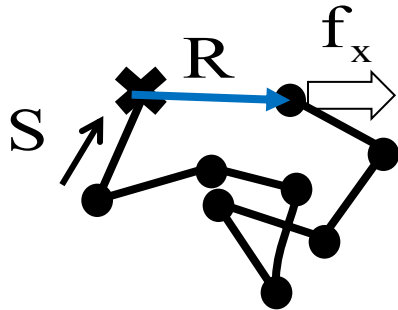
気体のエネルギー＝分子の運動エネルギー
外からした仕事＝気体のエネルギー増加



高分子を断熱的に引っ張ると温度が上がる



高分子鎖の弾性



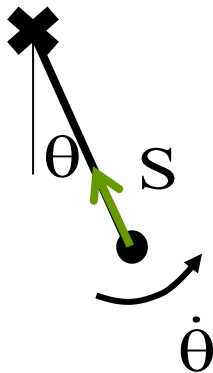
f_x 高分子の端にかかる力の平均

S 高分子の張力

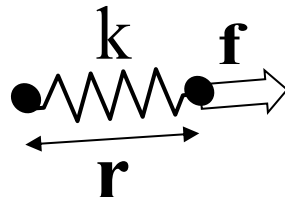
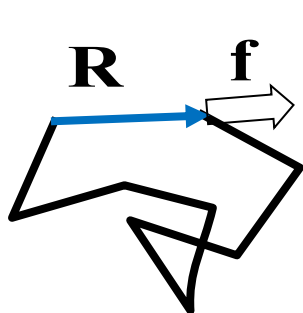
$$\frac{1}{2}mb^2\dot{\theta}^2 \approx k_B T$$

$$S = mb\dot{\theta}^2 \approx \frac{k_B T}{b}$$

$$\langle \sin \theta \rangle \approx \frac{r_{ix}}{b}$$



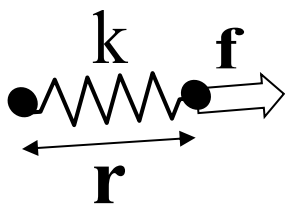
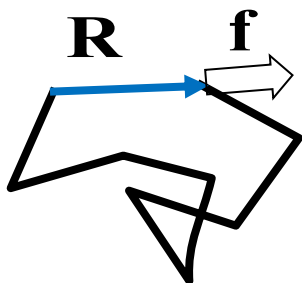
$$f_x = S \langle \sin \theta \rangle = S \frac{R_x}{Nb} \approx \frac{k_B T}{Nb^2} R_x$$



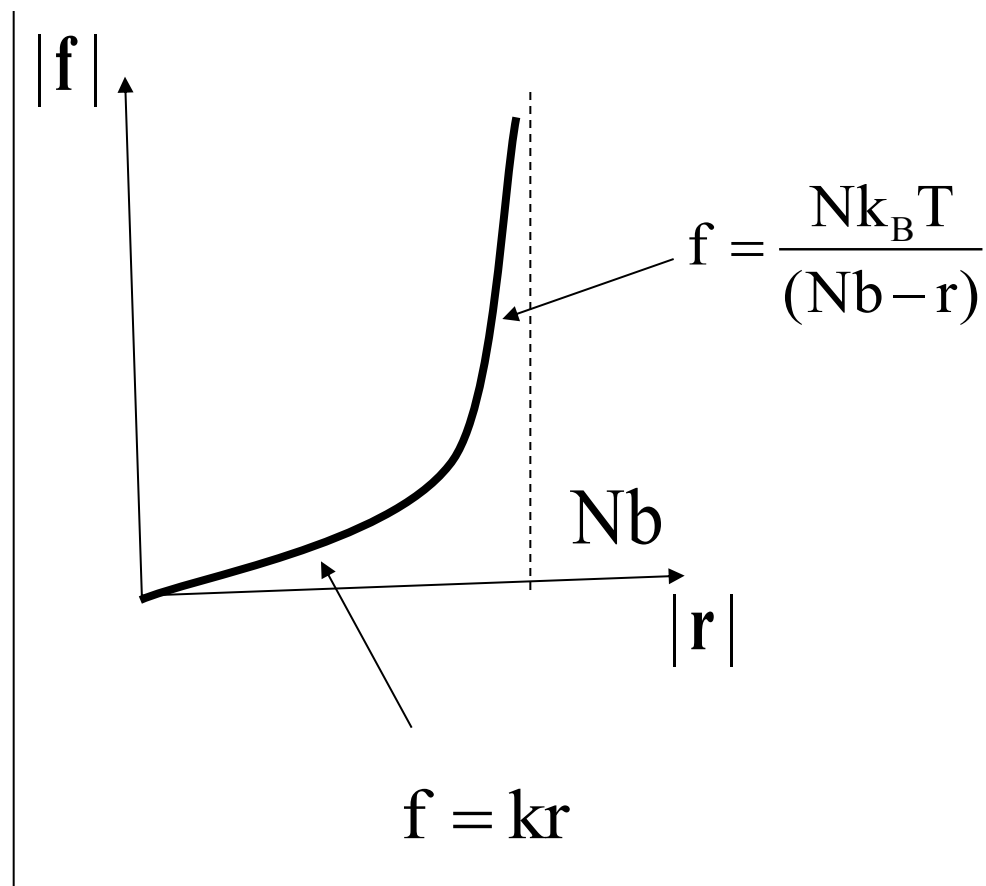
$$\mathbf{f} = k\mathbf{R}$$

$$k = \frac{3k_B T}{Nb^2}$$

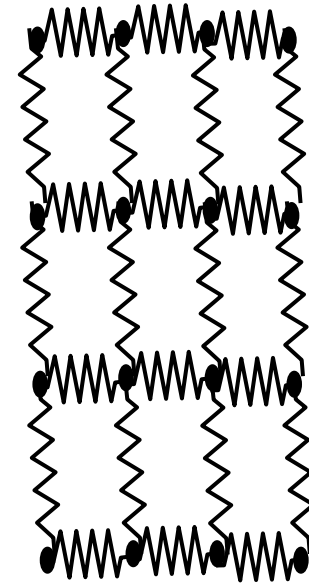
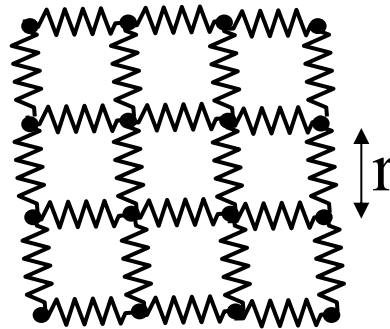
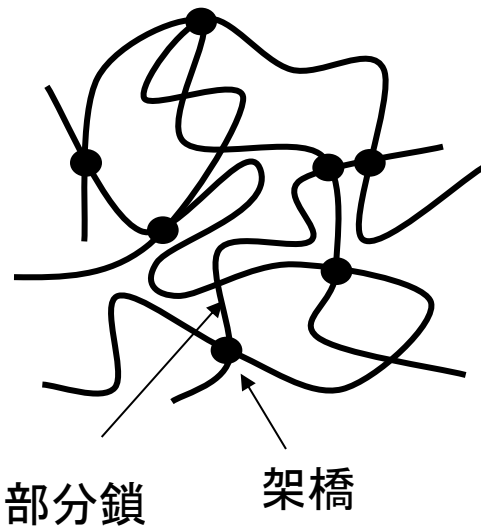
高分子は熱運動がつくる 分子バネ



$$\mathbf{f} = k\mathbf{R} \quad k = \frac{3k_B T}{Nb^2}$$



ゴム弾性のモデル



$$U = n \frac{k}{2} r^2$$

$$U' = \frac{n}{3} \frac{k}{2} [\lambda_x^2 r^2 + \lambda_y^2 r^2 + \lambda_z^2 r^2]$$

$$\Delta U = U' - U = \frac{k}{2} \frac{n}{3} [\lambda_x^2 r^2 + \lambda_y^2 r^2 + \lambda_z^2 r^2 - 3r^2]$$

$$\Delta U = \frac{1}{2} n k_B T (\lambda_x^2 + \lambda_y^2 + \lambda_z^2 - 3)$$

$$r^2 = N b^2$$

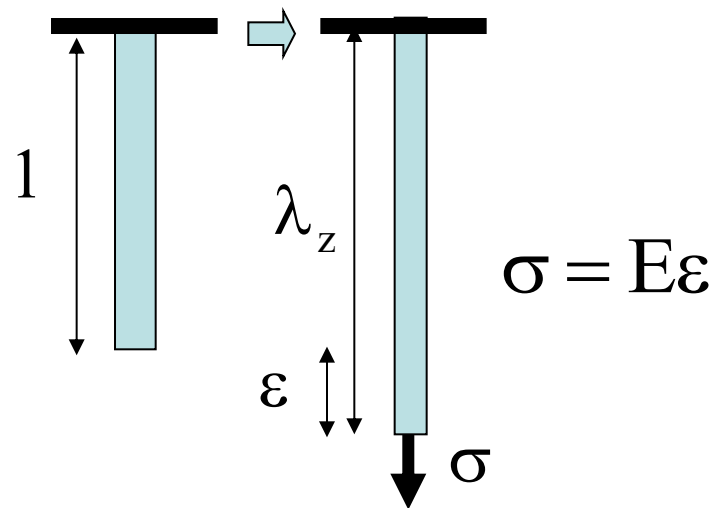
$$k = \frac{3 k_B T}{N b^2}$$

ゴムの弾性率

一軸伸張

$$\lambda_x = \lambda_y = \frac{1}{\sqrt{\lambda_z}} \quad \lambda_z = 1 + \varepsilon$$

$$\begin{aligned} \Delta U &= \frac{1}{2} n k_B T \left(\frac{2}{\lambda_z} + \lambda_z^2 - 3 \right) \\ &= \frac{3}{2} n k_B T \varepsilon^2 = \frac{1}{2} E \varepsilon^2 \end{aligned}$$

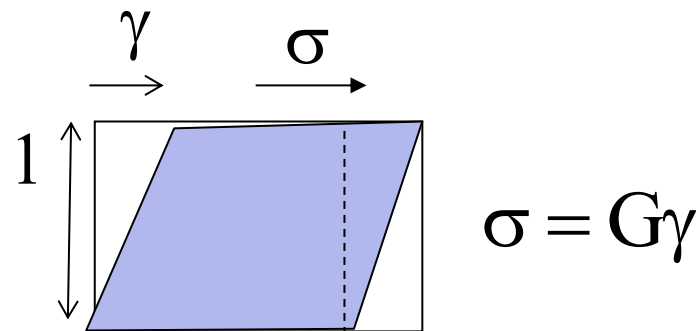


ヤング率

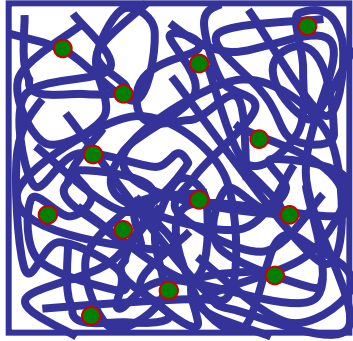
$$E = 3n k_B T$$

ずり弾性率

$$G = n k_B T$$



ゴムのずり弾性率と気体の体積弾性率

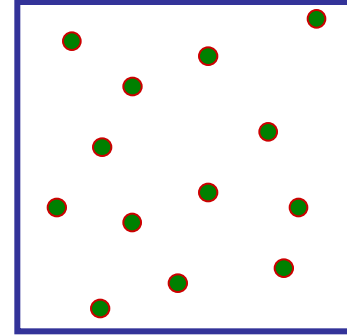


ゴムのずり弾性率

$$G = n_c k_B T$$

ゴムの体積弾性率

≈

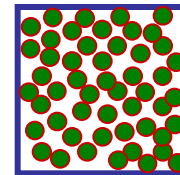


架橋剤だけからなる
気体の体積弾性率

$$K = n_c k_B T$$

≈

液体の体積弾性率



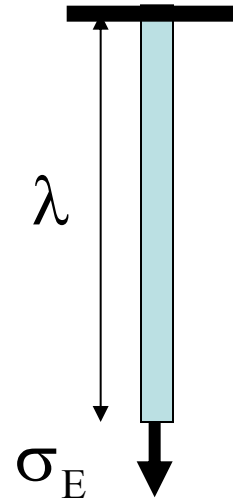
ゴムを軟らかいと感じるのは形を変えやすいから。
体積は変わっていない。

大変形の弾性論

$$\Delta U = \frac{1}{2} G(J-3) \quad J = \lambda_x^2 + \lambda_y^2 + \lambda_z^2 - 3$$

一軸伸張

$$J = \frac{2}{\lambda} + \lambda^2 - 3$$
$$\sigma_E = \frac{\partial U}{\partial \lambda} = G \left(\lambda - \frac{1}{\lambda^2} \right)$$



著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を
削除しました

グラフ: Comparison of the
nominal stress-stretch
behavior of the Gaussian
statistics model to Treloar data

Mary C.Boyce and Ellen M.
Arruda (2000) Constitutive
Models of Rubber Elasticity: A
Review, *Rubber Chemistry and
Technology*, vol.73(no.3): 504-
523, p.508 Fig.2

Gent model

$$\Delta U = -\frac{1}{2} GJ_m \ln \left(1 - \frac{J}{J_m} \right)$$

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を
削除しました

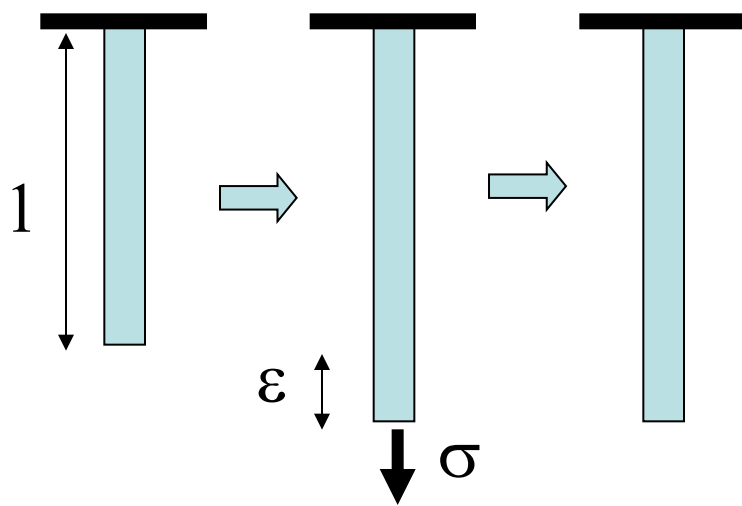
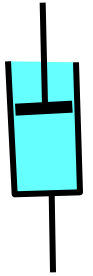
グラフ: Comparison of the
nominal stress-stretch
behavior of the 3-chain
network model to Treloar data

Mary C.Boyce and Ellen M.
Arruda (2000) Constitutive
Models of Rubber Elasticity:
A Review, *Rubber Chemistry
and Technology*, vol.73(no.3):
504-523, p.508 Fig.3

ガムの粘性

粘性

流体は固有の形をもっていないが、形を変えられることには抵抗する。この性質を粘性という。



Newtonの粘性法則

$$\sigma = 3\eta \dot{\epsilon}$$

$$\dot{\epsilon} = \frac{d\epsilon}{dt}$$

伸張速度

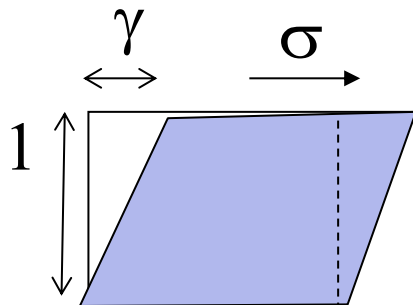
η

粘度 (viscosity)

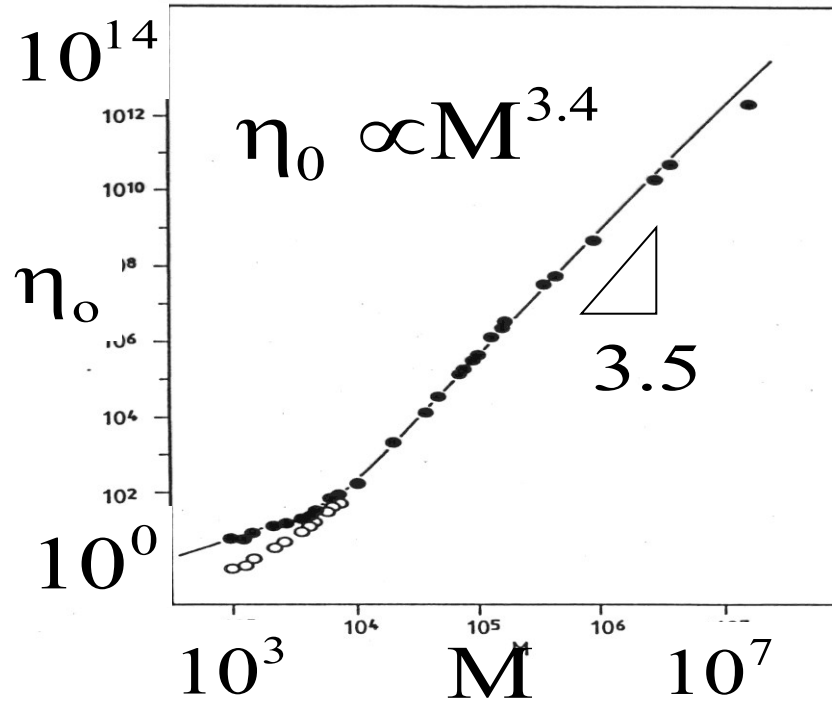
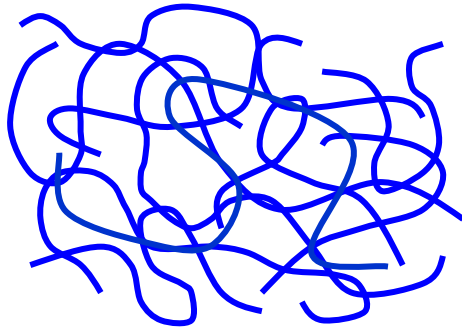
$$\sigma = \eta \dot{\gamma}$$

$$\dot{\gamma} = \frac{d\gamma}{dt}$$

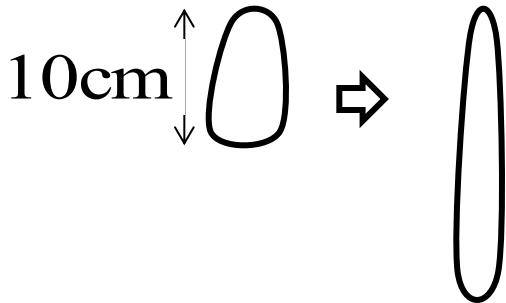
ずり速度



高分子の液体は高粘度



*
出典: Ralph H. Colby, Lewis J. Fetters and William W. Graessley (1987) The Melt Viscosity-Molecular Weight Relationship for Linear Polymers, *Macromolecules*, vol.20(no.9):2226-2237, p.2232 Fig.5

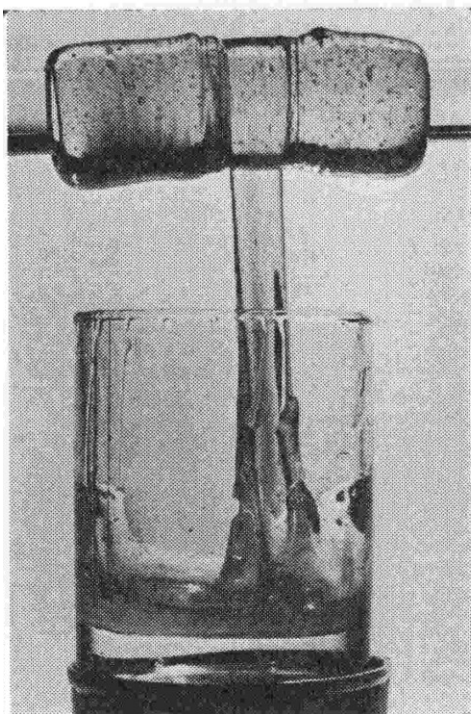


$$\tau \approx \frac{\eta}{\rho g L} \approx 10^{-6} [\text{s}] \quad \text{水} \quad 1 \text{ mPa s} [10^{-3} \text{ Pa s}]$$

$$\eta = 10^6 [\text{Pa s}] \quad \tau \approx 10^3 [\text{s}]$$

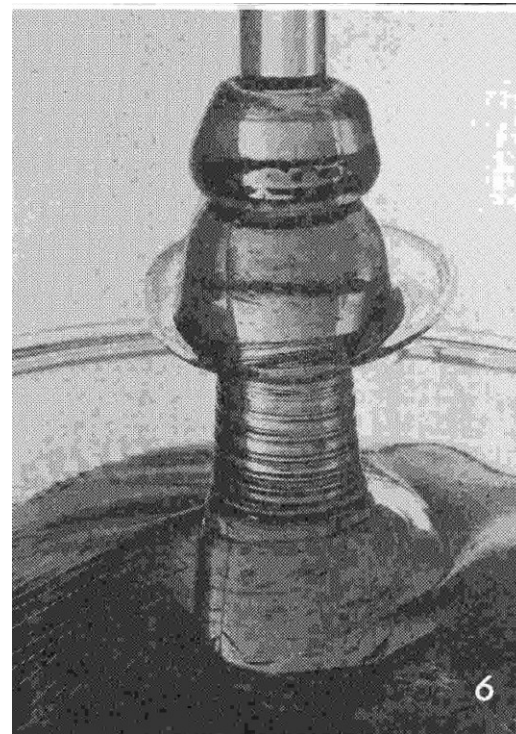
高分子の流れは奇妙

弾性がある



*
中川鶴太郎『流れる
固体』岩波科学の本、
岩波書店、1975年、
p.150

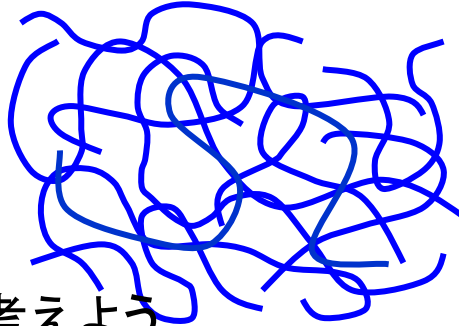
棒に巻き付く



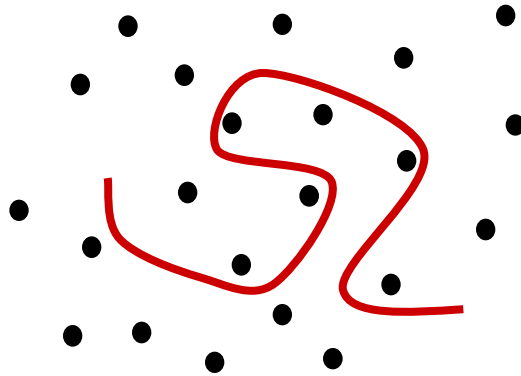
*
中川鶴太郎『流れる
固体』岩波科学の本、
岩波書店、1975年、
p.157

高分子の絡み合い理論

高分子絡み合い系は長い間の難問



少し理想化した系を考えよう



今まで見えなかったものが見えてくる



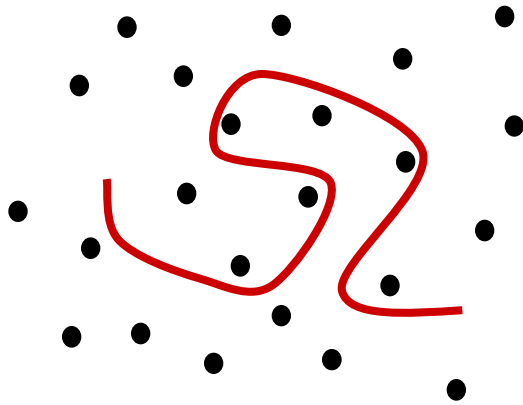
de Gennes

Edwards

Tube model (Edwards 1967)

レプテーション理論

De Gennes 1971



管の中の拡散定数

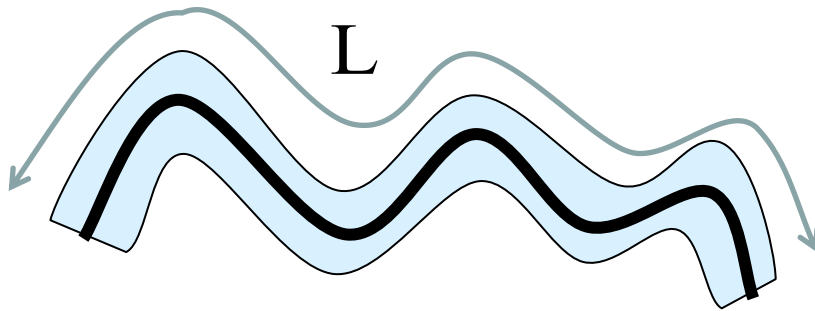
$$D_c \propto M^{-1}$$

管の全長

$$L \propto M$$

管から抜け出す時間

$$\tau \approx \frac{L^2}{D_c} \propto M^3$$



網目の中の拡散定数

$$D_g \approx \frac{R_g^2}{\tau} \propto M^{-2}$$

固体とも流体ともつかない物質

身近にある



練り歯磨き

Photo by Thegreenj
<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Toothpasteonbrush.jpg>
CC BY-SA 3.0



ケーキ



卵



応用上も大切

- レジスト
- 保護フィルム
- 太陽電池

まとめ

- チューインガムは、液体とも固体ともつかない奇妙な物質（粘性と弾性を持つ粘弾性体）
- でも、その性質は物理の言葉で理解できる（ハズ）。
- 実際、高分子の粘弾性と分子的起源はかなりわかってきた。（レオロジーという学問）
- でも、わからないことはまだまだ多い。
 - 粘着、摩擦、破壊、などなど

- 見慣れた現象も分かっていないことが多い
- その研究が最先端技術の研究につながっている